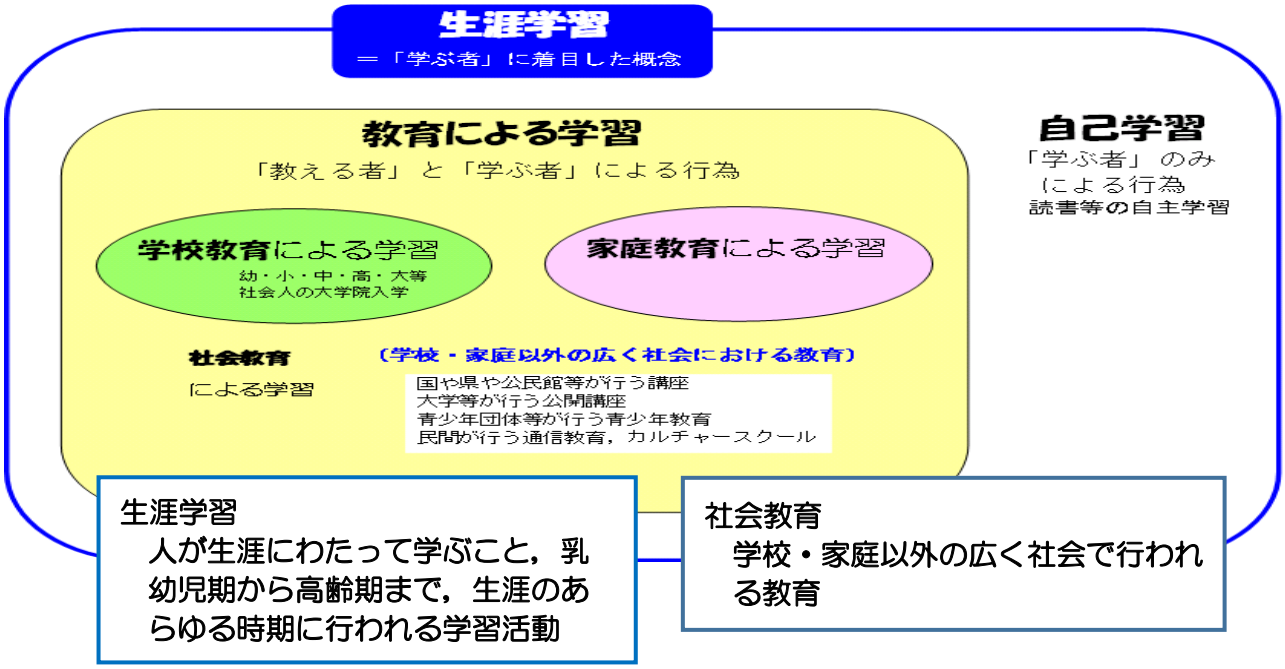
生涯学習・社会教育って何？

参考：広島県教育委員会　ホットライン教育ひろしま



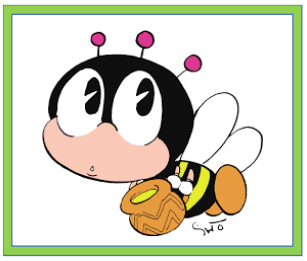
生涯学習
　人が生涯にわたって学ぶこと，乳幼児期から高齢期まで，生涯のあらゆる時期に行われる学習活動

社会教育
　学校・家庭以外の広く社会で行われる教育

　平成１８年に改正された教育基本法第３条の「生涯学習の理念」では，実現されるべき生涯学習社会として，一人一人が生涯にわたってあらゆる機会や場所で学習できるとともに，その成果を適切に生かすことができる社会の実現が明記されています。
　かつては学習者のニーズに応えるため，生涯学習の推進や支援は多様な学習機会をいかに提供するかが考えられていましたが，近年ではニーズに応じた学習によって成果を達成するだけでなく，その成果が広く認められることが，学習者の自己実現にとって必要であると考えられるようになりました。
　学びを学びで終わらせるのではなく，学習成果を生かすことができる社会では，学習者がその成果をもとに地域の活動に参加することによって，誰かの役に立っているという有用感・肯定感等を培い，さらに社会活動を行う中で新たな学習への動機が生まれ，持続的な学びと活動の循環につながります。

教育基本法
（生涯学習の理念）
第３条　国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことができる社会の実現が図られなければならない。
（社会教育）
第１２条　個人の要望や社会の要請にこたえ、社会において行われる教育は、国及び団体によって奨励されなければならない。
　２　国及び地方公共団体は、図書館、博物館、公民館、その他の社会教育施設の設置、学校の施設利用、学習の機会及び情報の提供その他の適当な方法によって社会教育の振興に努めなければならない。

文部科学省の依頼により、故・石ノ森章太郎（漫画家）が無償でデザインした生涯学習マスコットマークです。生涯学習の「学ぶ」とみつばちの「Bee」を合わせ、「マナビィ」と名づけられました。蜜蜂の触角は2本ですが、「学」という字の頭に角が3本あるように、学ぶことが好きな「マナビィ」には触角が3本あります。そして、老若男女がいつでもどこでも楽しく学び活動するといった生涯学習のイメージを浸透させることに大きな役割を果たしています。マナビィが持っている「壺」に入っているものは、一見ハチミツにも見えますが、じつは「マナ」（コエンドロ（コリアンダー））という植物の実で、イスラエルの民がエジプトを脱出し、荒野を旅していたときに天から授かり、以後４０年間、この「マナ」だけを食べて生き延びたと言われている食べ物だそうです。石ノ森章太郎さんは、「学び」は人々が生きていく上で欠かせないものであるというメッセージを、我々に託されたのでしょう。



生涯学習マスコット　マナビィ

横浜市教育委員会生涯学習文化財課発行「生涯学習 HANDBOOK 基礎編」より抜粋